

宮崎県気候変動適応センター通信 第22号

九州南部の3月の地域平均気温が統計開始以降、最も高くなりました

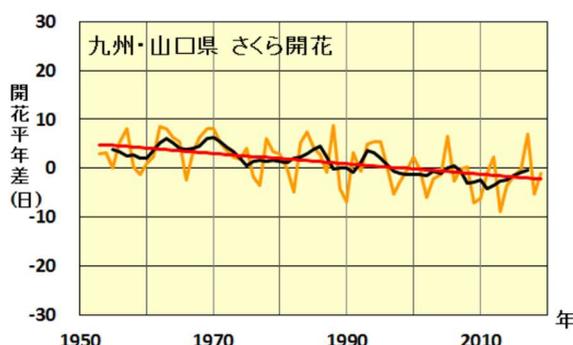
九州南部の3月の地域平均気温は、平年より2.7℃高く、統計開始(1946年)以降、最も高くなりました。

表1 九州南部、奄美地方の3月の月平均気温が高かった年と地域平均気温平年差

	2021年	これまでの1位	これまでの2位
九州南部	+2.7	+1.8 (2013年)	+1.7 (2018年)
奄美地方	+1.9	+1.7 (1999年)	+1.7 (1992年)

<出典>鹿児島地方気象台

桜の開花は年々早まる傾向に！



<出典>福岡管区気象台「九州・山口県の気候変動監視レポート2019」

今年は宮崎地方気象台のさくら*が3月16日に開花しましたが、これは平年より8日早く、昨年より9日早い開花となりました。また、「九州・山口県の気候変動監視レポート2019」によると、九州・山口県のさくら*の開花日は10年間あたり1.1日早くなっています。*ソメイヨシノ

植物季節現象 (九州・山口県)	変化傾向 (日/10年)	統計期間
さくら開花	-1.1	1953~2019



少し古いデータではありますが、2007年に公表されたIPCCの第四次評価報告書に基づき、(株)ウェザーニューズが2010年~2110年の桜開花シミュレーションを行っています。

それによると、気温上昇最大シナリオ(石油等の化石エネルギーを重視した経済成長が続き、21世紀末は20世紀末と比べて世界平均気温が4.0度程度上昇、日本では4度~7度程度上昇すると想定)の場合、宮崎県の大部分は2110年には桜が「開花しない」エリアとなっています。

※桜の代表種であるソメイヨシノは冬の間、十分に低い気温にさらされることにより、休眠から覚める「休眠打破」の状態を経て、気温上昇とともに生長し開花するが、温暖化が進むと、十分に気温が下がらず、「休眠」から覚めにくくなるため。



<出典>(株)ウェザーニューズ「2010年~2110年における桜開花シミュレーション結果発表」

このまま地球温暖化が続くと、宮崎県ではお花見ができなくなる！？といったことが将来起こるかもしれません。孫やひ孫の世代までお花見ができるよう、今から、地球温暖化対策に取り組む必要があります。

宮崎県気候変動適応センター

事務局：宮崎県環境森林部環境森林課 電話：0985-26-7084 E-mail:kankyoshinrin.pref.miyazaki.lg.jp

